

～同推だより～

出会い

【編集】

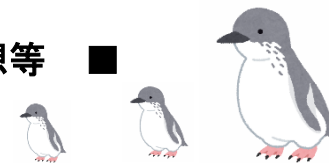
散岐地区同和教育推進協議会

【発行日】

令和6(2024)年2月25日

《第32号》

■ 意見・感想等 ■



□ SNSが普及してきて、間違った情報を得てしまう。正しい知識を得ることが必要である。

□ 以前は、小学校で同和教育がなされていたのに現在は行われていない。間違った情報に惑わされないためにも、学校で同和教育を行ってほしい。

□ 職場では、幅広く人権問題について研修が行われている。継続的に学習することが必要だと感じている。

□ 以前は、学校で同和教育を学習していたが、今はほとんどなく、曖昧な情報が拡散されている。

□ インターネットでは誹謗中傷が多く、差別的な意見も掲載されている。研修することが大切だと考えている。

□ 久しぶりに同和問題を取り上げた。最近目立たなくなったが、今でもあると気づかされた。悩んでいる人が現実にあると改めて感じた。



小地域座談会の様子

□ 年に一度でもこのような勉強をすると、心が洗われる。

人権尊重の社会づくりへ

暮らしの中のさまざまな人権問題について話し合う小地域座談会を、昨年11月に各集落で開催しました。

コロナ禍の関係で4年ぶりとなった今回は、人

人権・同和教育小地域座談会

権啓発DVD『あなたに伝えたいこと』を視聴後、話し合いを深めました。啓発DVDの内容及び意見・感想等をお読みいただき、改めて人権について学びを深めていただければ幸いです。

DVD『あなたに伝えたいこと』

～あらすじ～

鈴木真央とその恋人の渡辺拓海が、ドライブに出かけようとしている。行先は、真央の祖母・ツワのところである。しかし、その矢先に真央の親友の亜美からメールが入る。亜美の父のレストランが、ネット上の悪質な書き込みにより、中傷されているとのことであった。

二人は、亜美の店に行く。拓海は、削除願いや等の対策を取ることを亜美に進める。その店が、同和地区にあるという書き込みもあった。拓海は自分の両親も結婚相手の身元調査をするかもしれないことを真央に語る。

真央が、そのことを母・幸子に言うと、幸子の様子が一変し、拓海との結婚に反対するようになる。真央は、そんな母の態度に違和感を覚える。幸子は、黙って自分の実家に帰る。そこに、真央も会社を休んでやってきた。

真央、幸子、ツワの三人を穏やかな日差しが包み込む。幸子は、本当のことを真央に伝える。幸子も結婚差別を受けた。しかし、真央の父・義則は、すべてを承知した上で、幸子に対する自分の素直な気持ちのままプロポーズし、そして、二人は結婚したという。真央は、自分の家族のことを拓海に告げる決心をする。

令和6年明け、元旦から最大震度7を記録する能登半島地震が起きました。被災地では、厳しい寒さや頻発する地震で不安な生活環境にあります。一日も早いライフラインの復旧が望まれます。

さて、散岐地区同和教育推進協議会では、4年ぶりに小地域座談会を昨年11月に各集落で開催しました。ご参加いただき、ありがとうございました。

今回は、DVD『あなたに伝えたいこと』を視聴し、同和問題をはじめ、さまざまな人権問題につ

小地域座談会を終えて

散岐地区同和教育推進協議会
会長 野際 章人

いて意見交換しました。人権とは、一人ひとりがかげがえのない個人として尊重することです。優

しさや思いやりを養うことも大切ですが、思いやりの気持ちが向かうのは、自分が仲間と感じている人や助けたい人に限られます。人権を持つという点では、仲間であってもなくても同じです。誰にも普遍的な人権があり、あらゆる人間の尊厳が大切にされるべき視点が重要です。

人と人とのつながりについて、改めて見つめ直すことが大切です。

多文化共生について学ぶ



国際交流事業（ロシア編）

国際交流事業の一環として、「多文化を知ろう！ロシアのお話」を、12月9日（土）に開催しました。

講師に、鳥取市環日本海経済交流センターのセンター長を務めるチェブラコワ・イリーナさんをお迎えしました。

参加された皆さんが緊張していましたが、イリーナさんの軽快なおしゃべりに打ち解けて、和やかな雰囲気になりました。

初めにプロジェクターにより、ロシア・



聴講の様子

ウクライナ・ベラルーシの文化や国の特色を聞かせていただきました。

その後のロシア料理作りでは、「ボルシチ」「ミモザサラダ」「ロシア風ピラフ」を教えてください、普段あまり見ない香辛料やボルシチに用いる赤ビーツ等を使いました。

野菜が茹で上がるまでの時間は、スライドショー等でイリーナさんが感じてきた自国のお話を聞きました。

最後に、出来上がった料理をみんなで囲み、舌鼓を打ちながら、異国の歴史や文化の話に花を咲かせていました。

皆さんが、とても素晴らしい時間が過ごせたことに感謝していました。



料理づくりの様子

～編集後記～



元旦に発生した「能登半島地震」では、家屋の倒壊、津波、火災により、多くの方が亡くなり、また、今なお、被災者が厳しい避難生活を余儀なくされています。

そのような中、炊き出しや災害瓦礫の撤去、物資や義援金による支援等、物心両面に渡る善意が現地に寄せられています。

今回の地震は、日本が改めて「地震国家」であることを認識するとともに、災害に対する平時からの備えの必要性も突き付けられているように思います。

地域の人間関係が希薄にならないように、「お互い様」の心で、普段からつながり合うことが、いざという時の大きな支えになると思います。

(T. O)

